

阪南港

歴史

阪南港は、大阪湾東部沿岸のほぼ中央に位置し、泉北郡忠岡町、岸和田市及び貝塚市の地先、約7kmにわたってまたがる港湾であり、昭和43年4月に忠岡港、岸和田港及び貝塚港の三つの港湾が統合されて重要港湾の指定を受けました。

旧忠岡港付近の海浜は、興津浜と称して古今集にも歌われており、背後地では、農業が主に行われていました。明治の末期から副業的産物であった「白木綿」の需要が増大し生産高も上昇しましたが、輸送するための港湾施設がなく、わずかに私設棧橋による他はほとんどが陸送でした。

また、旧岸和田港は今から230年前、寛政3年(西暦1791年)に岸和田藩主岡部氏の命により浦奉行、伴丈左衛門が海岸を浚渫して船着き場を築き、商船の係留に利用したのが始まりでした。

旧貝塚港は、豊臣秀吉の「朝鮮の役」前後、港湾物流増大の流れを受け、一大商港を形成し、瀬戸内海を主とする西国諸国との通商のために利用されたと言われていています。

明治の末期から大正にかけて、この地域は日本でも有数の「紡績地帯」として発展しましたが、近年に至り、全国的な木材の需要に対処すると共に防災面も考慮して、昭和41年に木材の取扱いを主とした港(木材コンビナート)を忠岡町と岸和田市地先に建設しました。

その後の背後地域の都市化、関西国際空港の建設等の経済・社会情勢の変化に対応し、商港機能の拡充及び生活環境の改善を図るため、岸和田旧港においては、水と緑、歴史と文化につつまれた新しい港湾都市の建設、阪南4区においては、隣接する阪南5区、6区とあわせて工場用地、港湾用地、住宅用地等を整備し「住み」「働き」「憩う」総合的なまちづくりを進めています。また、阪南2区整備事業では、物流機能の強化、工場移転用地の確保、マリナーの整備、海浜・緑地の整備、防災機能の確保等人や環境にやさしい魅力ある港湾空間の形成を目指し、整備を進めています。

港湾区域

大阪府泉北郡忠岡町忠岡浜1562番地先海岸堤防基部(北緯34度29分48秒、東経135度23分23秒)から0度70mの地点まで引いた線、同地点から312度3, 235mの地点まで引いた線、同地点から206度40分7, 280mの地点まで引いた線、同地点から126度30分2, 715mの地点まで引いた線及び陸岸により囲まれた海面。ただし、漁港漁場整備法に基づき指定された岸和田漁港の区域を除く。

新貝塚埠頭(阪南4区)



泉南地区の物流の玄関口とするため整備された埠頭で、阪南港で唯一、一般貨物の取扱いが可能な外貿埠頭となっています。

また、同埠頭に隣接する二色の浜産業団地は貝塚市内にある製造業等の移転用地として整備され、多数の企業が進出しています。

阪南2区



阪南2区(約142ha)では、水深13m岸壁3バースの外貿埠頭等の整備を進め、府営港湾の物流機能の強化や耐震強化岸壁の整備により防災機能を高めます。さらに、地域の産業振興及び環境改善のために、工場移転用地を確保するとともに、海域の環境創造を目指した海浜や干潟の整備、海洋性クレイションの需要に対応したマリーナも計画しています。このように阪南2区は、港湾整備だけでなく、人々が集える施設整備を進め、人や環境にやさしい、魅力ある海浜空間を形成します。

木材港地区



この地区は、高度経済成長期の急速な住宅需要に伴う輸入木材の増加に対応するため、昭和41年に建設され、以来、府内有数の木材産業基地として大きな役割を果たしてきました。現在は近年の木材需要及び荷役形態の変化に伴い、水深12m岸壁等の公共埠頭や港湾関連用地が整備されています。

(2021 大阪府営港湾要覧より抜粋)